

目 標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際関係などに関わる諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目標とする。

●学習内容

1 学期	20 時間	2 学期	28 時間	3 学期	22 時間
第 1 章 公共の扉	20	第 2 章 現代社会の諸課題	28	第 2 章 現代社会の諸課題	14
1 公共と人		1 法		3 経済	
2 公共と倫理		2 政治		第 3 章 持続可能な社会へ	8
3 公共の基本原理					

教材

教科書:「公共」教育図書
 ワーク:「公共ワークノート」教育図書
 資料集:「クローズアップ公共」第一学習社
 自主作成教材(プリント)

授業の進め方

社会の一員として、現代の諸課題に関して主体的に考える市民性を養うことを目指して、社会的な見方・考え方を働かせて様々な言語活動を行う。具体的には、教科書で扱う様々な教材をもとに、文章・資料読解やレポート作成などの「読む」「書く」活動や、グループでのディスカッションなどの「話す」「聞く」活動を行っていく。学習評価については、単元ごとに知識理解の定着を評価し定期的に実施される考査や小論文により、知識理解の深度と論理的思考力を評価する。

●身に付ける能力とそのレベル

評価の観点	知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度	
評価規準	活用できる (できる)	○ 現代の諸課題を捉え考察し判断評価するための概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○ 現代の諸課題解決のため選択・判断の手掛かりとなる概念や公共的な基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を身に付けている。	○ よりよい社会の実現を目指し、公共的な空間に生きる主体として、自らの学びを深めようとし、また多面的・多角的な考察や深い理解をふまえて互いの価値観を尊重して協働的に学ぶ態度を身に付けている。
	習得する (わかる)	○ 現代の諸課題を捉え考察し判断評価するための概念や理論について理解し、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能の習得に取り組んでいる。	○ 現代の諸課題解決のため選択・判断の手掛かりとなる概念や公共的な基本的原理を活用し、事実をもとに考察し公正に判断する姿勢や、構想したことを表現できる。	○ よりよい社会の実現を目指し、公共的な空間に生きる主体として、自らの学びをふまえて互いの価値観を尊重して協働的に学ぼうとしている。
評価方法	定期考査・課題	定期考査・小論文(レポート)・ディスカッション	授業に取り組む姿勢・主体課題の到達度	

単元別 評価規準

第1章 公共の扉

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	<ul style="list-style-type: none"> 人間は社会的・公共的な存在として、協働により集団を作る存在であることを説明できる。 社会参画の手掛かりとなる概念・理論や、公共的空間における基本的原理を説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間が社会的・公共的な存在として、協働により集団を作る存在であることを多面的・多角的に考察し、論理的に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間の社会的特性について、多面的・多角的に観察し、自らの経験に照らして考えられる。 理解を深めるために、自ら主体的に学ぶ行動がとれている。
	習得する (わかる)	<ul style="list-style-type: none"> 上記の知識理解を示すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、多面的・多角的に言語表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、自らの理解を深めるための行動をとろうとしている。

第2章 現代社会の諸課題

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	<ul style="list-style-type: none"> 第1章において身に着けた知識概念を基礎として、現代社会の諸課題について調べ理解する適切な方法をとることができる。 具体的な諸課題から、公共原理として働く理論・概念とその相互関連性に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1章で身に付けた考え方や公共的な空間に働く基本的原理とその視座などを活用し、法・政治・経済などに関わるシステムを踏まえて活動するために必要なことを多面的・多角的に考察し、論理的に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働して、学習活動を通して、人間としての在り方生き方についての理解を深められている。 理解を深めるために、自ら主体的に学ぶ行動がとれている。
	習得する (わかる)	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、現代社会の諸課題について調べ理解する技能をふまえ、そこに働く公共原理に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、法・政治・経済などに関わるシステムを踏まえて活動するために必要なことを考察し、言語表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、自らの理解を深めるための行動をとろうとしている。

第3章 持続可能な社会へ

評価の観点		知識・技能(技術)	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	活用できる (できる)	<ul style="list-style-type: none"> 第1章、第2章において身に着けた知識概念を基礎として、現代社会の諸課題について調べ理解する適切な方法をとることができる。 具体的な諸課題から、公共原理として働く理論・概念とその相互関連性に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1章・第2章で身に付けたことを踏まえ、よりよい地域・国家・社会の構築及び平和で安定した社会の形成へ主体的に自ら参画していく観点から、課題を見いだすことができる。 諸課題の解決に向けて事実を基に協働して考察・構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を探究する活動を通して、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想する姿勢がある。 個人を起点として、自立、協働の観点から、多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れて探究する姿勢がある。
	習得する (わかる)	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、現代社会の諸課題について調べ理解する技能をふまえ、そこに働く公共原理に気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、現代の諸課題を解決するための主体的で見通しを持った考察を言語表現しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 上記について、自らの理解を深めるための行動をとろうとしている。